漫画

て見る時局雜誌

二月號

四年三月九日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
九年一月廿八日印刷納本　昭和十九年二月一日發行
第十二卷　第二號

一九四四年の會談　サア飛行機が待つております

那須良輔

漫画

第十二巻第二號

二月號

眼で見る時局雜誌

巻頭言

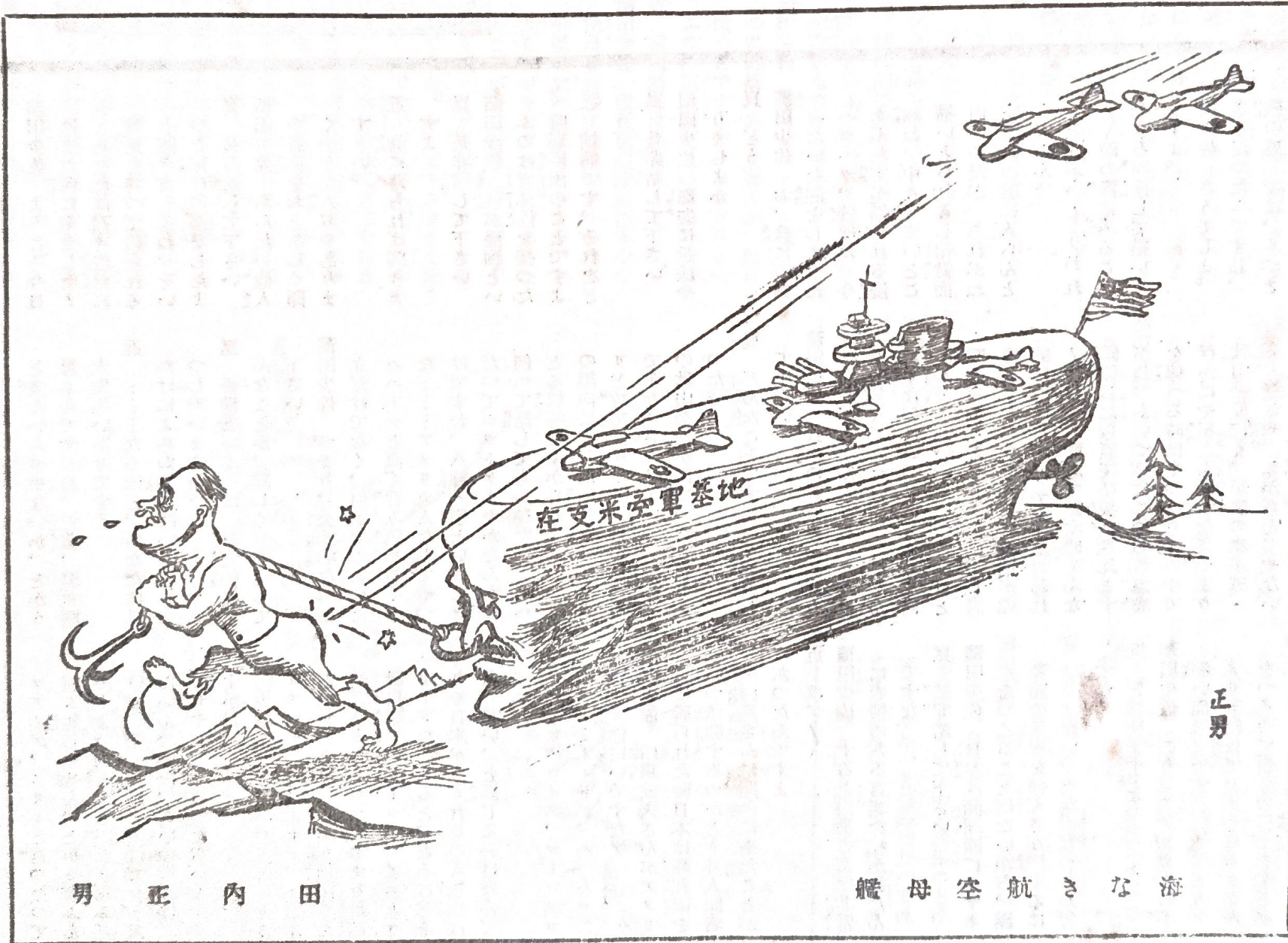
こないだ海軍機關學校の校長閣下にお目にかゝつたんですよ。校長は現役の少將なんですがね、威張らず、高振らず、何かから素つ頓狂な顔をした好ましい方でした「機關學校といひますと、何をどんな風に敎へる學校か知りませんが、どうも飛行機の學校なんぞみたいにパッとしませんなア」と私が無遠慮に言ひますと。校長閣下キナ臭いやうに笑ひましてね、かうおつしやるんです。

「全く、パッとしませんなア。しかし、この學校がなかつたら對潜水艦戰も、從つて補給戰も出來ない、といふことは言へますな。しかし、要するに、こゝの仕事は椽の下の力持……いや椽の下の力持以上の忍び強さがなくつちやア出來ませんね。椽の下の力持といふのは、まだ／＼さういふ言葉自體が多少の名を求めて居ることなんです。名も地位も何も求めず只自己の仕事を忠實にやり拔く、それが他に認められようが認められまいがそんなことは問題おやない、といふ所まで本當に徹しないと、どうもこんな地味で苦勞ばかり多い仕事は出來ませんな。

よく武士は名を重んじる、と申しますが、僕に言はせると、名を重んじる、名を殘したい、といふ根性が既に日本の武士としてはちよつといささかみつともない、とかう思ふんです。草と生れ、草の役目を果し、草と枯れて行く……それが眞の日本武士たる者の道ぢやありませんかな。

虎は死して皮を殘し、人は死して名を殘すなんぞは君、鎌倉武士の墮落を物語るものですよ。人によると、名を重んじた鎌倉武士が武士の歴史の中で一番光つて居るように言ひますが、僕は、鎌倉武士といふのは、眞の日本武士道からは一つ踏み外した安物だと考へとりますね。

名を殘さうと戀々としたら多少することが大向ふを狙ひますよ。名を殘さうといふ觀念が、多分に行動の純粹さを缺きますよ、自分の努力、苦しみといふものは、金でもなく、名でもなく、只仕事、行動の成果として殘ればいゝんで、つまり誰が知らなくつても、氣が付かなくつても、眞實のお役に立てばいゝんですね。默々とやると、か、默々とやる、とかいふ意識すら持たず、唯もうやるだけのことなんですよ。

ザルゴといふのがあるでしよ。誰が見て居ようが居まいがおかまひなく、唯もうその勝負に夢中になつて居る。勿論その勝負の模樣が新聞に出るわけでもなし、雜誌に載るわけでもないのに、全智全能を揮つて勝負に没頭して居る。岡目で見ればバカ／＼しい程の精根を、あばら家の隅つこかなんかで傾けつくして戰つて居る……

あの氣持ですね、あれが眞の武士の氣持ぢやないかと思ふんですよ。ヤア／＼遠からん者は音にも聞け、なんぞは不可ませんな、親や祖先の名前を長々と自慢たらしく並べて、自分に祖先の名を辱しめまい、といふ責任を感じさせてやつと人並の働きが出來るなんてものは意氣地がありません。系圖でおどかさうなんてのは武士らしくありません。

ザルゴ打ちの様に、どこの隅つこだらうが、誰も見て居なからうが、興味を持つて、ありつたけの力をつくすのが武士ですよ。

何萬人と居る工場の工員さんの一人々々の名前が公にされることなぞ殆どあり得ないことでせうが、その工員さん一人一人の働き、仕事良心といふものは國家の浮沈に關するのです。名前をいくら積み重ねたつて彈丸除けにやなりません。實際にシヤベルで砂を積み上げることが問題なんです。行動以外何もありやしませんよ。本當の武士は武士たることも忘れなくちやいけません。ひたすらに天皇、國家のために一塊の土くれと相果て誰一人に顧みられなくても成佛する覺悟が出來て居なくちやなりません」

話の後で、校長閣下の似顔繪を描いた私は、はて、サインをしたものか？　しないものか？　としばしためらひましたねエ。

（日出造）

海なき航空母艦　　田内正男

決戰表情

答へる人

大本營海軍報道部海軍少佐

濱田昇一

訊く者

近藤日出造

清水崑

濱田少佐 ようこそ今日はまた何に來ました？

近 あなたは豫々漫画に意見を持つて居られると聞きましてね、そいつを伺ひに來ましたよ

崑 是非話して下さい

濱田少佐 あんた方他人の意見をおとなしく聞くやうな人ぢやありますまい。

近 胸に落ちれば聞きますよ

崑 是非話して下さい

濱田少佐 僕が漫画といふのは宣傳性を持つた時局漫画のことですよ

近 結構です、それをどうぞ

崑 是非話して下さい

濱田少佐 釋迦に說法やりましよか

崑 どうぞ

濱田少佐 お、急に釋迦みたいな顔をしますね ハッハッ、儂はね、今あんた方が描かれる漫画ね、中々うまいとこ描いとられるし相當面白いんだが、あれがね、いつ敵の眼に入らんとも限らん。

近 そりや、もうわれ〱敵の眼に入ることを望み期待して描いてますよ。

濱田少佐 さうでしよ。さうだつたらですね、僕の感じでは、もつと表情がなくつちやピンと來ないんぢやないか、とかう思ふんですがね、近藤、清水兩大先生いかゞです？

近 ……なるほど、あなたは見かけによらぬ玄つぽいことをおつしやいますね。

崑 表情といふのは、具體的にどんなことか、詳しく是非話して下さい。

濱田少佐 つまり、公式的なお膳立だけでなく、何か血の通つたハハーンと直ぐ呑み込めるやうな……アメリカ人なんてやつはですね、八紘一宇といふことだつてホットケーキかなんかに例へて話してもらひたいと考へとる奴等ですからね、あいつ等の趣向に應じた道具立でピッタリと攻めなきや效き目がないんですな。さう〱いつか外務省の秋山公使が面白いこと言つとつた。

崑 どんなことですが。是非話して下さい

濱田少佐 日本のお嬢さんあたりは、ちよこなんときれいなだけで博多人形みたいに無表情なんですな。こいつが敵さんにや向かんですわい。あいつ等は口と顔と身振りと一しよに動かし居りますからな、相手に感情が端的に傳はるわけですな、われ〱日本人同志で話す時そんな眞似したら氣狂ひ扱ひされますがね、あいつ等にこつちの意志を傳へる時はやつぱりあの手で行かにや損なんですな。つまり秋山公使曰く、軍艦の率が五・五・三ぢや怪しからんぢやないか、といふ具合に、ファイブ、ファイブ、スリーと言つたつて何も感じやせん、とかう言ふんですよ。五と五と三かと思ふだけで、その實感まではピンと來ないんですな、あいつ等には

近 ぢや、どう言つたらいゝんですかね

濱田少佐 ローロスロイス ローロスロイス、フォード、と言ふとピンと來る、とかう秋山さんが言ひましたがね、つまり最高級自動車のローロスロイスとフォードを並べると、なるほどそりや日本がむくれるのも無理はないわい、と感じるわけなんですな

崑 ローロスロイス、ローロスロイス、フォードか、ハッハッこいつア面白いですなア

濱田少佐 白鳥敏夫さんがアメリカに居られた時日本は滿洲國をいつ承認するのかと？外人記者が白鳥さんに聞きに來たことがあつたんですよ

近 はア〱

濱田少佐 すると白鳥さんは非常に表情のある言葉を吐かれたんですな

崑 是非話して下さい

濱田少佐 日本は滿洲國にキャネルをつくることはないから、滿洲國の承認を何もさう慌てるには及ばない、とかう言つたんですな

近 と言ひますと？

濱田少佐 こりやアメリカへの手痛い面當てですわい。つまりアメリカは曾てパナマにキャネルをつくつて自分の勝手をする必要上、パナマ國を大急ぎで承認したことがありましたからね

近 皮肉な表情ですな

濱田少佐 外人記者は白鳥さんのこの一言でチーンと默つちやつたさうですよ

崑 愉快ですなアハッハッ

濱田少佐 まア、僕の言ふ表情といふことわかりましたか

近 よくわかりました

崑 おつしやる通りですよ

濱田少佐 ぢや、漫画の話はこの邊で打切りにしましよ、どうも玄人相手ぢや肩が凝つていかん

近 そんなら次は戰況について何か

崑 是非話して下さい

濱田少佐 いよ〱本業ですかな 大體新聞で察しがつくでせうが……まア何ですな、こんなわけですよ。ブーゲンビルと言つたつて相當大きな島でしてね、こゝのトロキナ岬に敵が上つてゐる、こゝのブインに日本軍が居る、つまりあの島に呉越同舟といふわけですね。で、敵の陣地とこつちの陣地の間は物凄いジャングルや沼地で、どつちも敵と戰つて敵を追つ拂ふにはそのジャングルを伐り開いて道路をつくつて進まにやならん。トラックを通さにやならん。大砲を運ばにやならん。こいつァちよつと無理な仕事ですわい。

崑 なアるほど

濱田少佐 勢ひ早く飛行機を造り早く飛行機を飛ばし、敵陣地の爆撃をやつて黙らすより手がない。しかも爆撃だけでは中々決定的ならちがあかん。かうなると全然補給比べ、根氣比べ、と

いふことになりますわな

近　長い戰爭になりますね

濱田少佐　なりますとも。つまりブーゲンビルは一つの例で、全戰局がこの擴大といふわけなんですな。ハヤバヤと事を運びつゝ勝つた方の勝ですよ

嵐　飛行機を造れ、造れと言はれて居りますが

濱田少佐　言ふわけですよ。飛行機が今の二倍あれば四倍の戰果が擧げられるんですからねエ。第一次のブーゲンビルの戰果をごらんなさい、たつた十四機であの通りやつとるぢやありませんか。十四機であれだつたら三十、五十あつたら一つも逃がしやしませんよ。全滅させることが出來るんですよ。

嵐　さうなりますかね

濱田少佐　なりますとも。十機を落す腕前の者でもですな、十二機に取圍まれたら負擔が多過ぎて五機も落せないもンですよ。ところが十機落す腕前の者が二つで十機は落せる……こりやどうしても增産といふことになるでせう

近　なるほどねエ

嵐　敵もしかしあの大きな犧牲を顧ず、相當出張つて來ましたね

濱田少佐　補給線がだん〳〵伸びて、敵もこれからが大變でせうね。補給線といふのはゴム管でしてね、長く伸ばせばどうしても細くなりますからね、ちよつとこいつァ伸ばし過ぎるとプツンと行きますからなア

嵐　こつちのゴム管はどうです

濱田少佐　そりや地圖で一眼睨んだけでも、敵のゴムホーズよりやこつちのゴムホーズの方が近いから有利だといふことはわかりますな。敵よりこつちの方がゴム管を引つぱり易いといふことも云へますな。只ね、問題はこのゴムホーズが完全に出來とるか？……いや、ゴムホーズが有るか？　無いか？といふことですよ。もしなかつたら、ないものは引つぱるにもどうにも仕樣がありませんからね、こいつァ急いで造らにやいかんですわい

嵐　つまり船とか、飛行機とか

濱田少佐　さうですよ。結局一機も多く、一船も多くといふところへ行くわけですな

嵐　戰線で、飛行機がなくて口惜しかつた、といふやうな實際談をお聞きになりましたか？

濱田少佐　聞かなかつたらもう少しのんびりしてゐますよ。ある設營隊で基地をつくりに行つた人の話ですがね、何しろ毎日頭の上に敵機がヂャン〳〵來る、時々タンクが現れる　こつちは何もない。あゝ飛行機が欲しい、タンクが欲しい、タンクが欲しい、飛行機が欲しい、で毎日他の事は考へなかつたらしいですね、やがてその人が内地へ歸りましてね、家へ歸ると子供が久し振りだもンでおやぢに甘へましてね、お父さん、飛行機買つとくれよ、タンク買つてちようだいとせがんださうですよ。感慨をね、それでその人、あゝ俺も前線ではこの子供の氣持と全く同じ氣持で飛行機やタンクを欲しがつたつけなア、と沁々感じたんださうですよ。この話はね、話としちや大して面白くないかも知れんが、實際にさういふ經驗を持つ人にはさぞかし感がいの深いもんぢやろなアと儂や思ひましたね

嵐　さうした實感はたまらんでせうねエ

近　とにかく飛行機を、船を、タンクを造ることですな

嵐　話は前に戻りますが、ジャングルといふのは、どんな程度に物凄いものなんですか

濱田少佐　儂はジャングル戰をやつた經驗はありませんが、話に聞くとですな、ジャングルといふのは濾過器だといふんですね

近　濾過器と言ひますと？

濱田少佐　機械化部隊が色々七つ道具を持つてジャングルの向ふの敵を攻めようとしますな、さうしてジャングルに入りますなところが暫く行くと、先づどうしてもトラックが通らなくなるんですな。そこでトラックを捨てゝるんですよ。又だん〳〵入つて行くと大砲を捨てざるを得なくなる。で大砲を捨てゝ、戰車を捨てる、次で糧食を、銃を、といふ風に何でもかんでも捨ててほんとうの裸一貫褌一つにならなけりや向ふに出ることが出來んもんださうですよ。とにかく自分の身體一つ通すのがやつとだと言ふんですな。近藤大先生なぞは、エラも捨てないといかんでせうなハッハッ

嵐　「なるほどそれぢやジャングルを越へて向ふの敵をやつつけることが中々出來ないとするとどうしても航空戰、根氣戰になりますね

濱田少佐　結局は速く飛行場を造り、飛行機を早く多く持つて來るといふことですな。何べん言つても同じことですよ。他に言ふことたアありませんよ。要するに設營戰といふことになりますよ。

近　設營戰の方はどうですか？

濱田少佐　日本の土木事業といふものは、今度の戰爭で反省させられましたね。日本は勞力賃銀が安いので高い機械を使はず安い人手を氣長に使つて居ましたんでね、機械の發達が遲れ、かういふ場合はヒケを取り易いですなア

嵐　うんと、うんと頑張らんといかんですな

濱田少佐　死もの狂ひで頑張るんですな。負けたとたんに、あゝあの時もうちよつと頑張つとけばよかッた、と愚痴つたつてはじまらんから、もうこれ以上は天命だ、といふ所まで全國民が頑張るんですな。そこまで頑張りや、なアに、リッンなんぞはシャッポ脱ぎますよ

近　大丈夫ですか？

濱田少佐　えゝ〳〵儂が引受けますよ、はッハッ

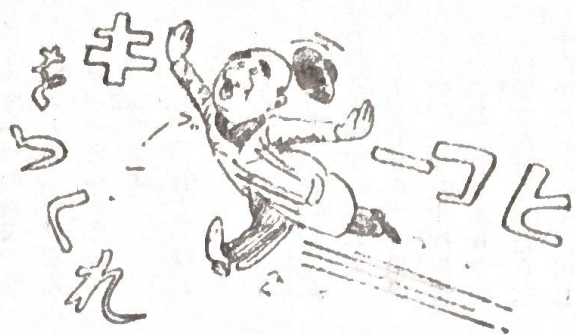
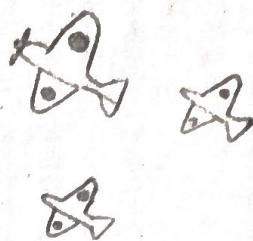
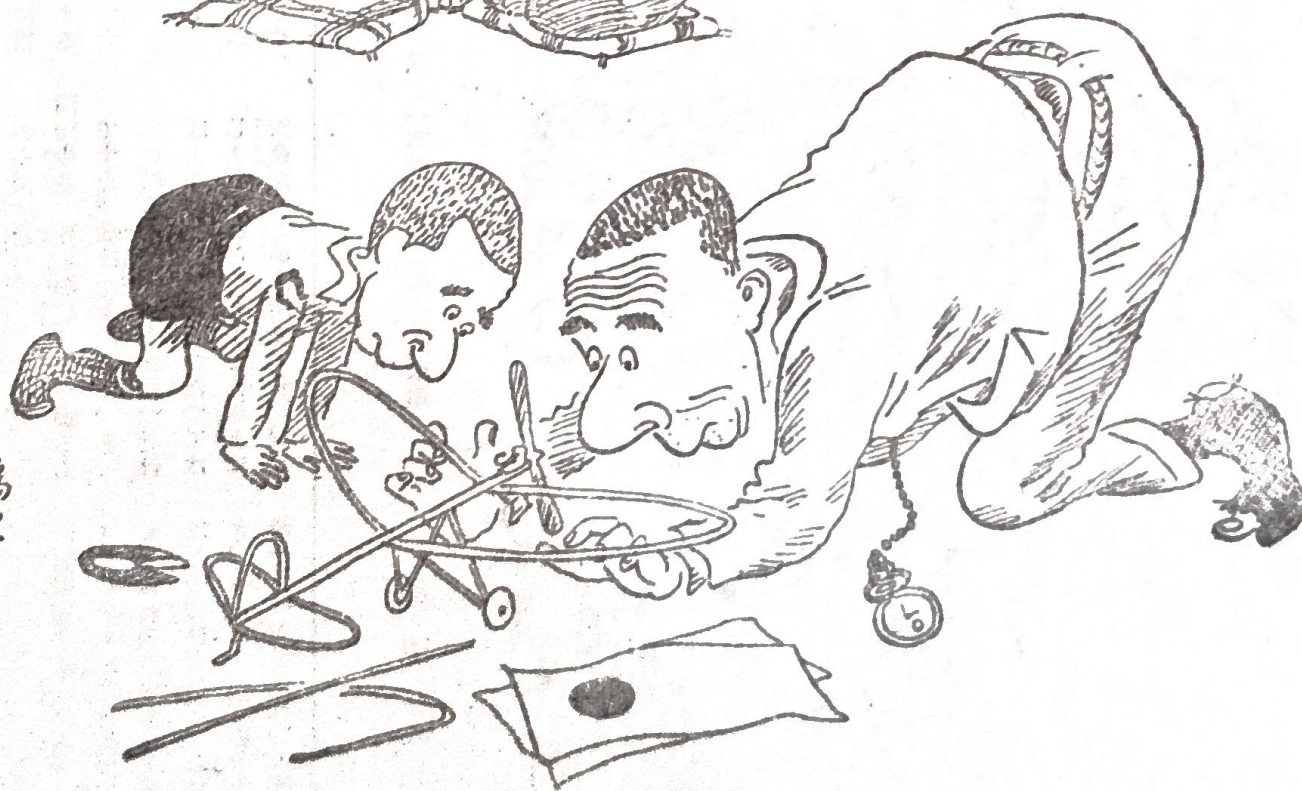
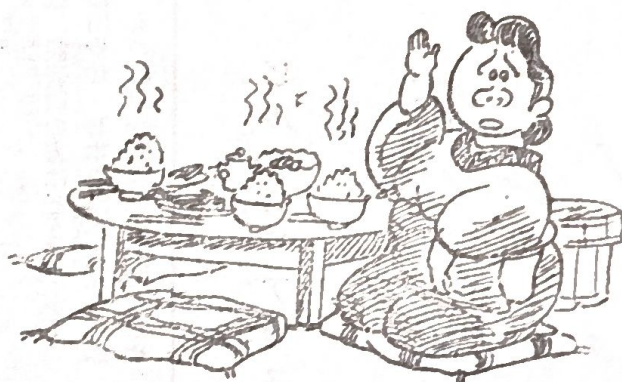
近、嵐　ハッハッハッハッ

×

海軍省を辭去せる近、嵐兩名すさまじき木枯しを眞向から受け首も千切れ飛び鼻もむしり取られるほどの思ひなれど、なアにこれしき、我慢だ！　頑張りだ！　と一歩一歩に力を入れつゝ歸りける。

ビルマのサアカス　英獨合同一座初春大公演　和田義三

ヒコーキおくれ

横井福次郎

「どれどれ、あれがお前のこしらへたヒコーキだつて。」
「さうよ、あの日の丸、あたしが塗つたのよ。どう、よく飛ぶでせう」

母親「どうだい、先様は飛行機工場へお勤めですとさ。こんな良縁は、又とないよ。千載一遇だよ。」
娘「だから、お母さんは古いつてエのよ。お嫁に行く前に、先づわたしが飛行機工場にはいつて、百臺ぐらゐ作つてからでなくつちや………」

「ねえ、お父ちやん。會社で、散々ヒコーキを作つてさ、家にゐる時ぐらゐ、ヒコーキを忘れたらどう？」

近頃世間の出來こと

近藤日出造

政治即人間

「政治は理論のみでは決して圓滑に行はれるものではない。理論だけで行けば世の中には隨分いらぬものがある。例へば酒、煙草等も決して必要品とは申し難い、しかし政治は大衆を引張つて行かねばならぬものであつて理論一點張りでなく寛嚴にも自ら限度が必要であつて、こゝに政治の妙諦がある。この點を十分考へて今後の地方行政に努力されたい」

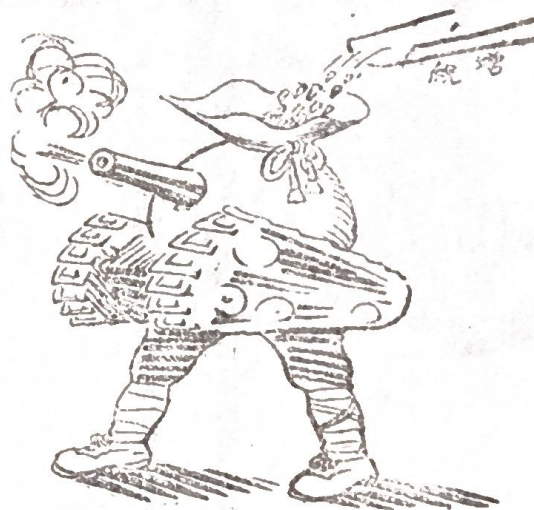
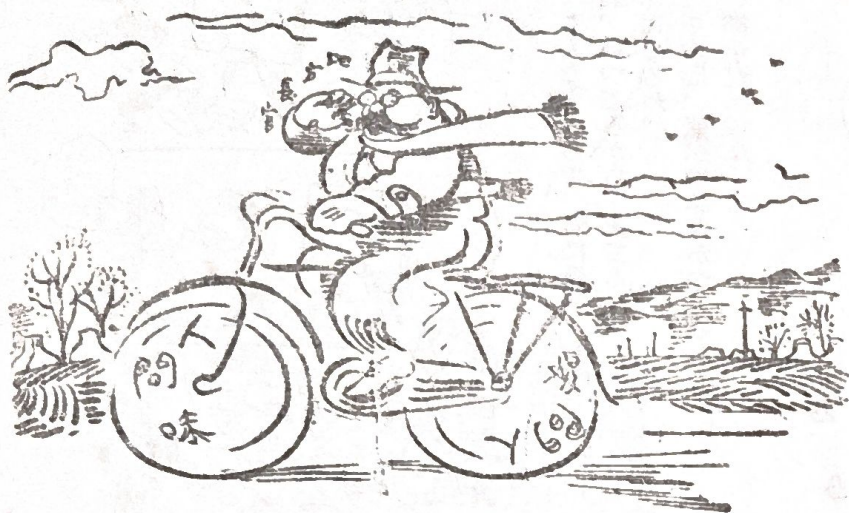
十二月二十二日の臨時地方長官會議で、東條さんがこんな演説をされた。この演説で

「さうか、多少のことは大目に見てくれるのか、」

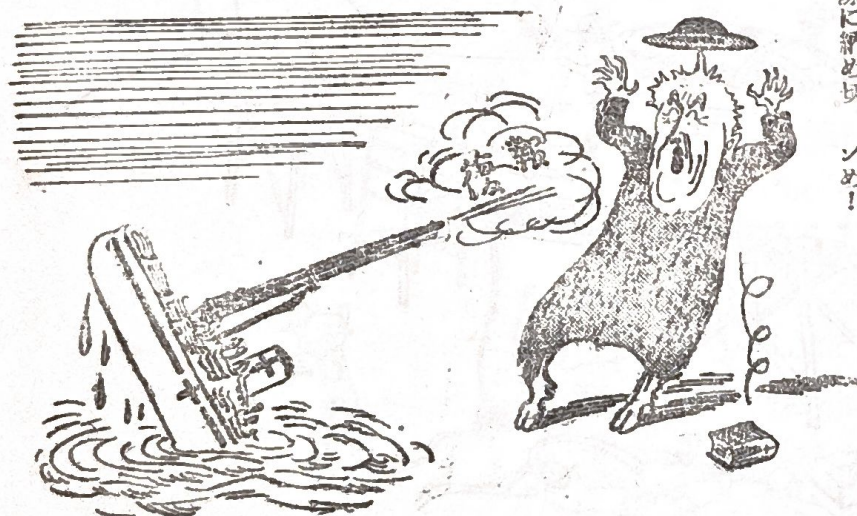
ちよつぴり位の闇なら許してもらへるのかしなぞと早合點してはいけない。上がこの様なあたゝかい氣持を示し、下萬民がそれに甘へぬ嚴しさを持してこそはじめて國はうまアく運轉して行くのだ。

この演説によつて、東條さんが地方長官たちもの、ヒゲを生やしたお地藏様みたいなことにならず先づ人間の血の通つた政治家たれと諭して居ることもわかる。

健全財政へのつとめ

ふんどしと財布はキチンとして居なくていけない。お上の財布がいゝかげんの弱體だと、折角の兵隊さんの御苦勞が無駄苦勞になる

この度の增税決定に對し、われ〳〵國民は苦しい顏をしたり弱音を吐くべきではない。增税による增收年二十五億圓見當、租税總收入額百七億七千餘萬圓といふと、へヘーッとびつくり仰天する程の巨額だが、なアにまだ〳〵アメリカやイギリスに比べたら低い税率だし、日本のお上は實際に納め切れない税金を無理無體げに取り上るような巷の高利貸如きわからずやではないんだから、案ずるよりは生むが易し、納め易し、と樂觀してせい〳〵働き、率先この大きく大切な義務を果さうではないか。

にせ牧師

十字架にお詣りする者が赤十字に爆彈銃彈の十字砲火を浴びせるんだから、キリスト様も穴があつたら消え入りたき思ひであらう。

十一月二十七日朝ニューアイルランド島沖でわが病院船ぶえのすあいれす丸が敵B42機に襲はれ白妙の身を無殘にも一七四名の悲しい犠牲者の血で染めつゝ擊沈を遂げたことは一億の心の色をカッと赤く燃え上らせた。

大東亞戰開始以來敵のわが病院船襲擊は九隻、十二回に及び、國際法も「アメリカに正義人道、鬼にバイブル」をわからせるテはありませんやしとサジを投げ加減である。その投げたサジを逆手に持つてエイッと報復してやるのが日本のとるべき手段である。覺悟はよいかメリケンめ！

玉砕

大本營發表（昭和十八年十二月二十日十五時十五分）タラワ島及マキン島守備の帝國海軍陸戰隊は十一月二十一日以來、三千の寡兵を以て五萬餘の敵上陸軍を邀擊し熾烈執拗なる敵機の銃爆擊及艦砲射擊に抗し、連日奮戰、我に數倍する大損害を與へつゝ敵の有力なる機動部隊を誘引して友軍の海空作戰に至大の寄與をなし、十一月二十五日最後の突擊を敢行、全員玉砕せり。

指揮官は海軍少將柴崎惠次なり

尚兩島に於て守備部隊に終始協力奮戰せし軍屬約一千五百名も亦全員玉砕せり。

玉砕といふ事實の前に全國民喘々頭を垂れ、頭で胸を打ちながらどうしても兵隊さんを玉砕のどたん場までやつてはならぬ、と心に契ふ。兵隊さん濟みませんでしたと又額で胸を打つ。

十九の元服

「うちの坊は身體はあの通り大きうござンすけど、まだほんとうにねんねエでしてㇾ」なぞと甘いお母さんは昔吸はれたおつぱいの痛さを思ひ出しながら言ふけれど、なアに當の本人、お母さんの前ではねんねエ面して居ても實はこつそり戀もし、哲學も嚙り、時局もちやんと辨へて、あつぱれ戰地で三人前五人前の働きをしたいものだ。

と念じて居るのである。

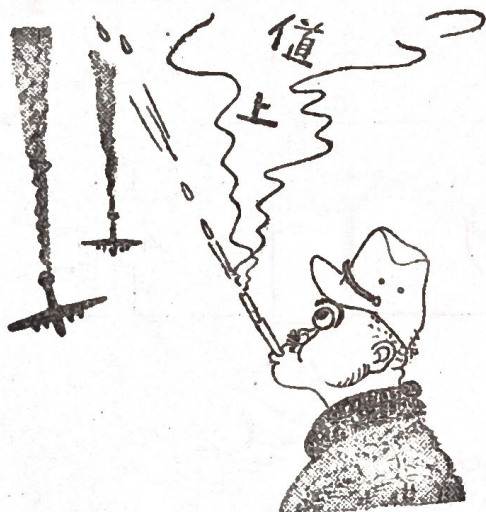
男生を享けて滿十九年も經ち身體の組立、物の考へ方がまだ一人前でなかつたらどうかして居る。一身を捧げて國を護らうといふ氣にならなかつたらどうかしてゐる今年から徵兵檢査の適齡が一年繰り上げられ十九歲といふことになつたことについて「まア！」と眼を瞬つてちよつと顏色を變へたりするのは、盲目の愛とやらを後生大事に持つてゐる舊式な母親位のもので、當の本人達は勇氣リンく人を甘く見ぬ當局の英斷に感謝して居るのである。

あがる煙

十二月二十七日又々大幅の煙草値上發表、皆々アットばかりにむせかへつた。一月十七日に値上げあつたのだから、これで昭和十八年度第二回目の値上りで、今度は平均五割方はね上つてゐるから月給袋を說き伏せるのには相當骨が折れよう。

新定價を見ると、われく が子供の頃、合言葉の樣に金七錢也と心得て居たバットが、いつの間にか金鵄と名を變へ、いつの間にか二十三錢也に納つてゐる。

今度の値上りで政府の增收は年約五億二千八百萬圓、これを擧げて戰費に廻すのだから文句は言はぬこと。文句を言ひたかつたらいつそ斷乎禁煙すること火の無い所に煙は立たず、喫まない煙草に不平はない筈。

あらゆる皮膚病に滲透療法
しまず痛まずよく効いてあとつかぬ
（藥店にあり）
皮膚病
五十錢
一圓
五錢
皮膚 チヤージ
山崎帝國堂
東京神田花房町
振替東京一〇〇

高血壓こそ腦溢血の前兆
常に頭重・肩凝り・動悸・息切れ
手足痺れ痛み・便秘・不眠に悩む方
貴方の血壓…若し計られたら必ず高いのが普通。ナゼなら高血壓、即ち動脈硬化に伴ふ自覺症狀に外ならないからです。御承知の如く血壓が年の割に高いと、昨今の氣壓の變動がスグ血管に響き脳小動脈は其の壓力に耐へ切れずして時に破裂する。是ぞ腦溢血で、倒れたら最早手遲れ。前兆たる見出し症狀時代にフルチ錠により早速御手當下さい。キット喜んで頂けます。
主効
腦動脈硬化・手足不隨
神經痛・中風・脚氣
眼病・神經衰弱
三圓・五圓
全國藥店有
東京・京橋
フルチ錠

帝國生命
東京・丸ノ内

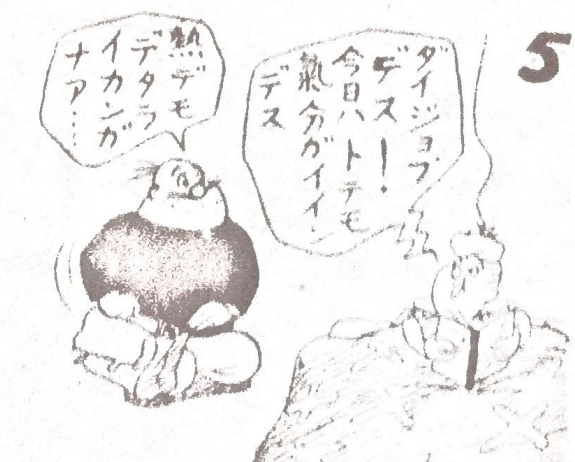
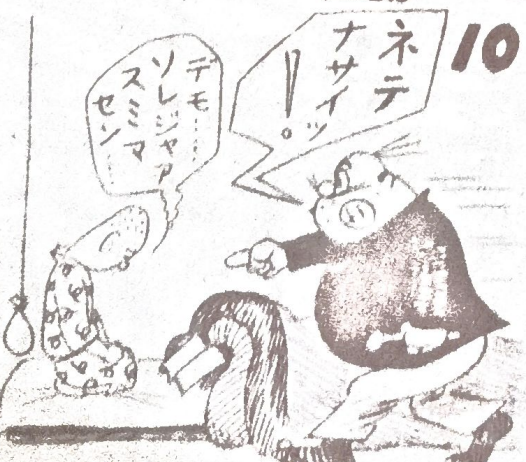
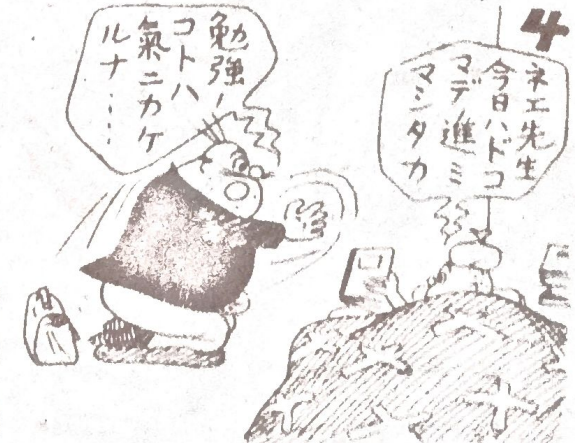
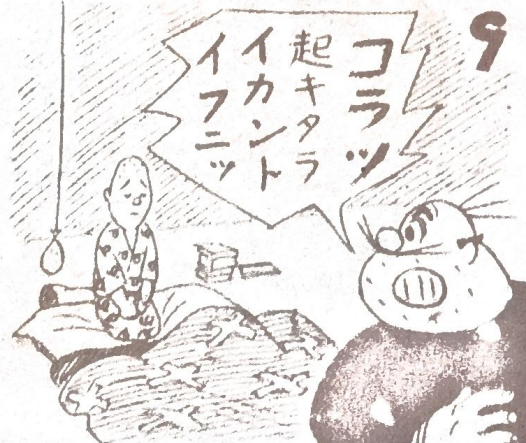
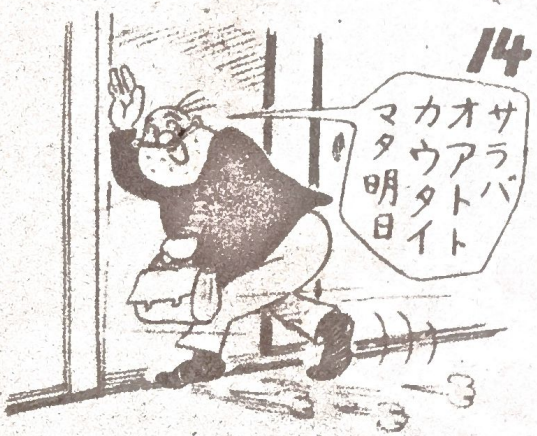
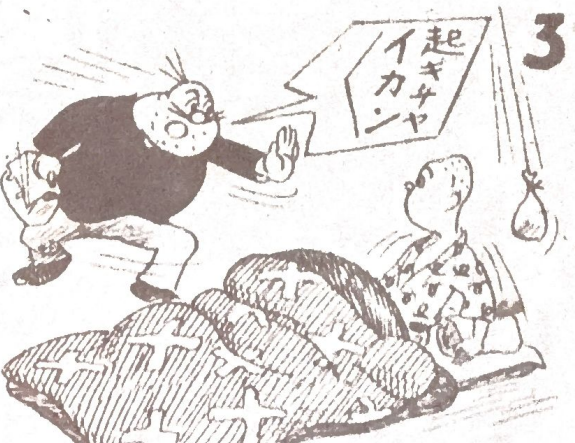
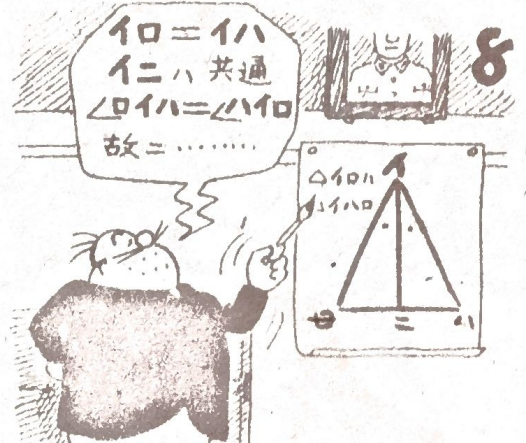
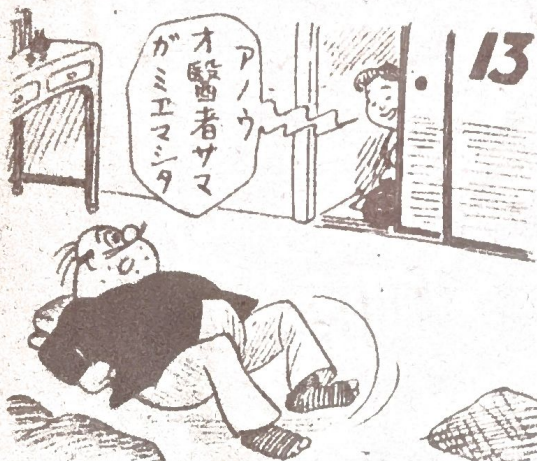
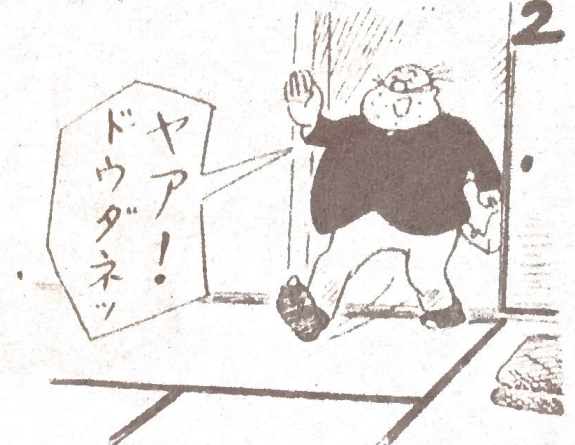
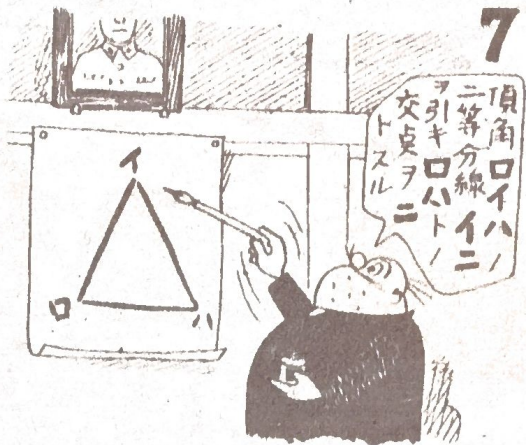
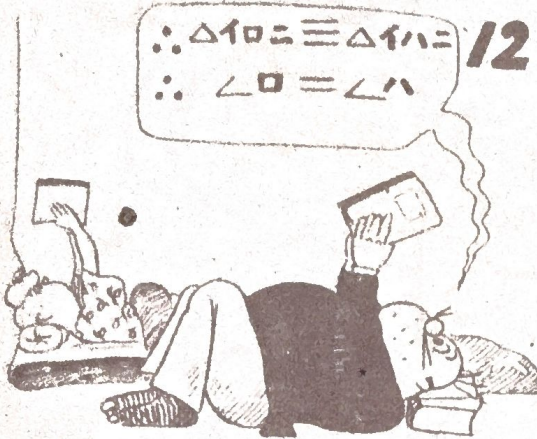
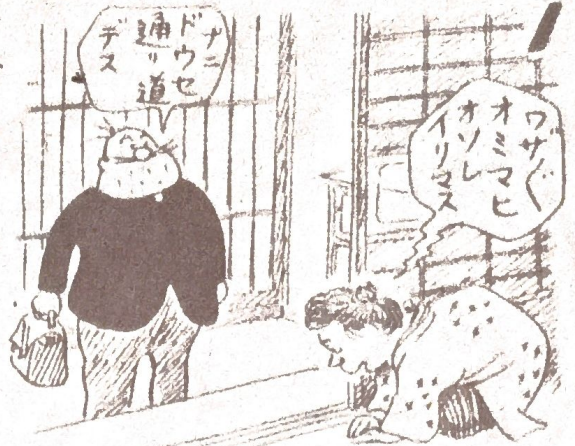
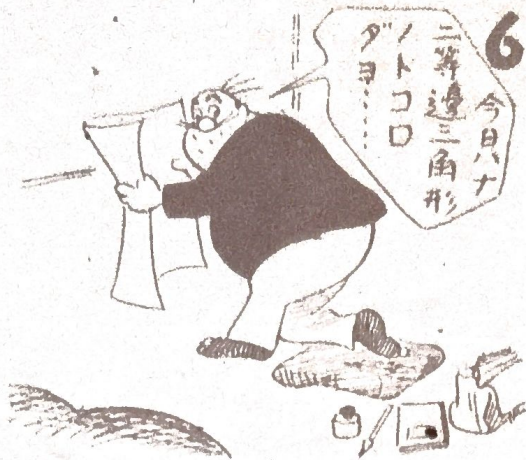
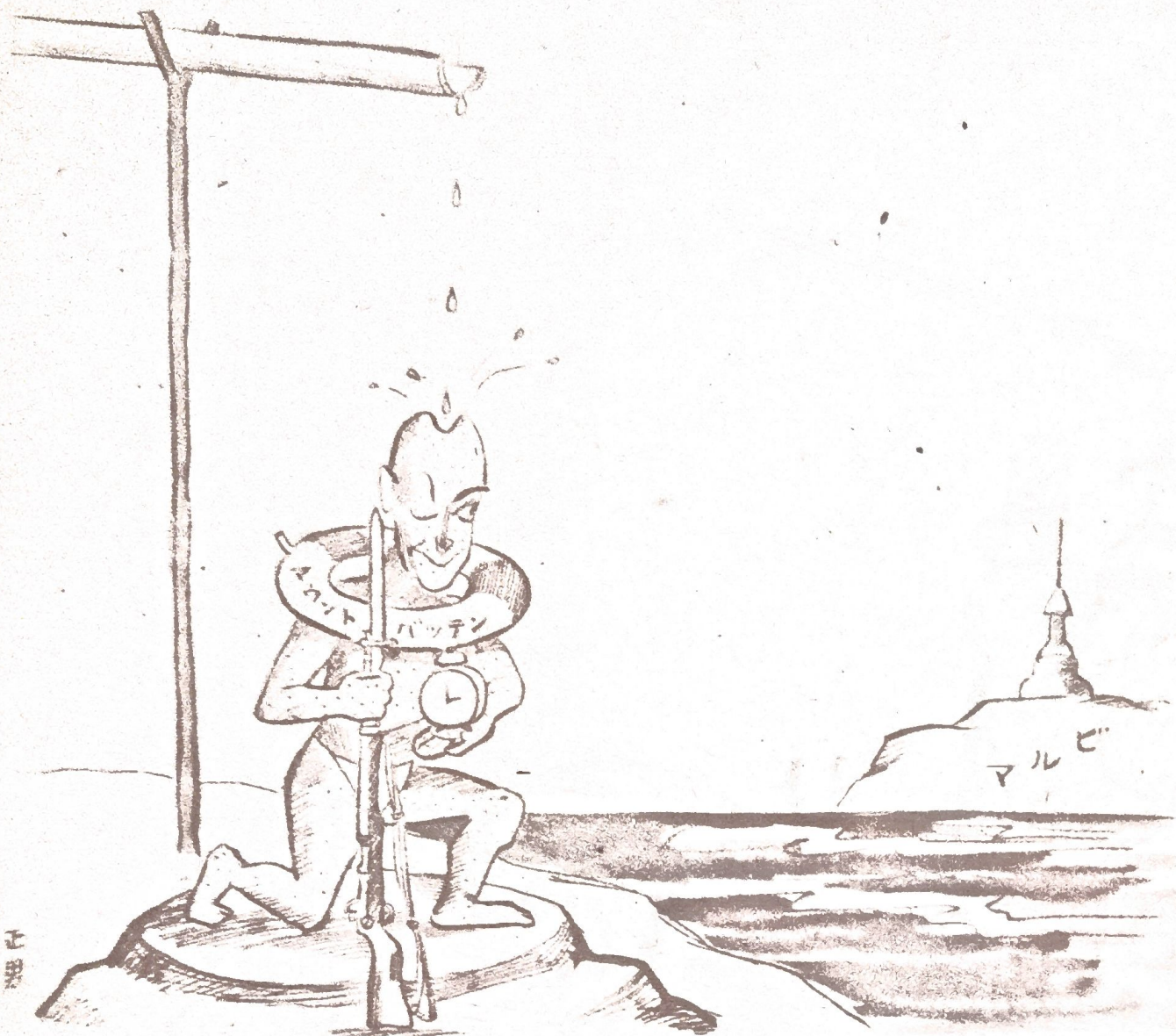
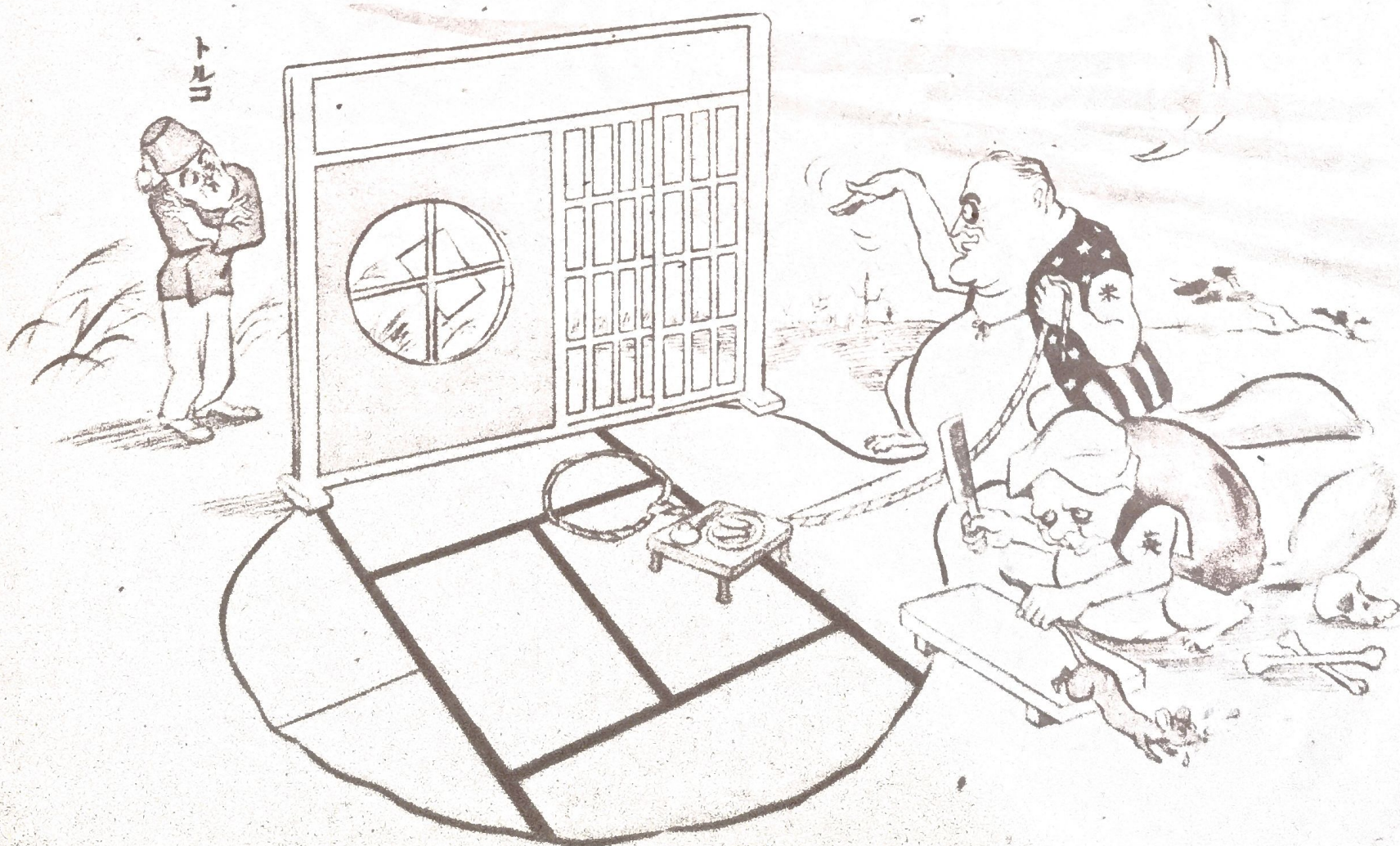
轟先生　秋好馨

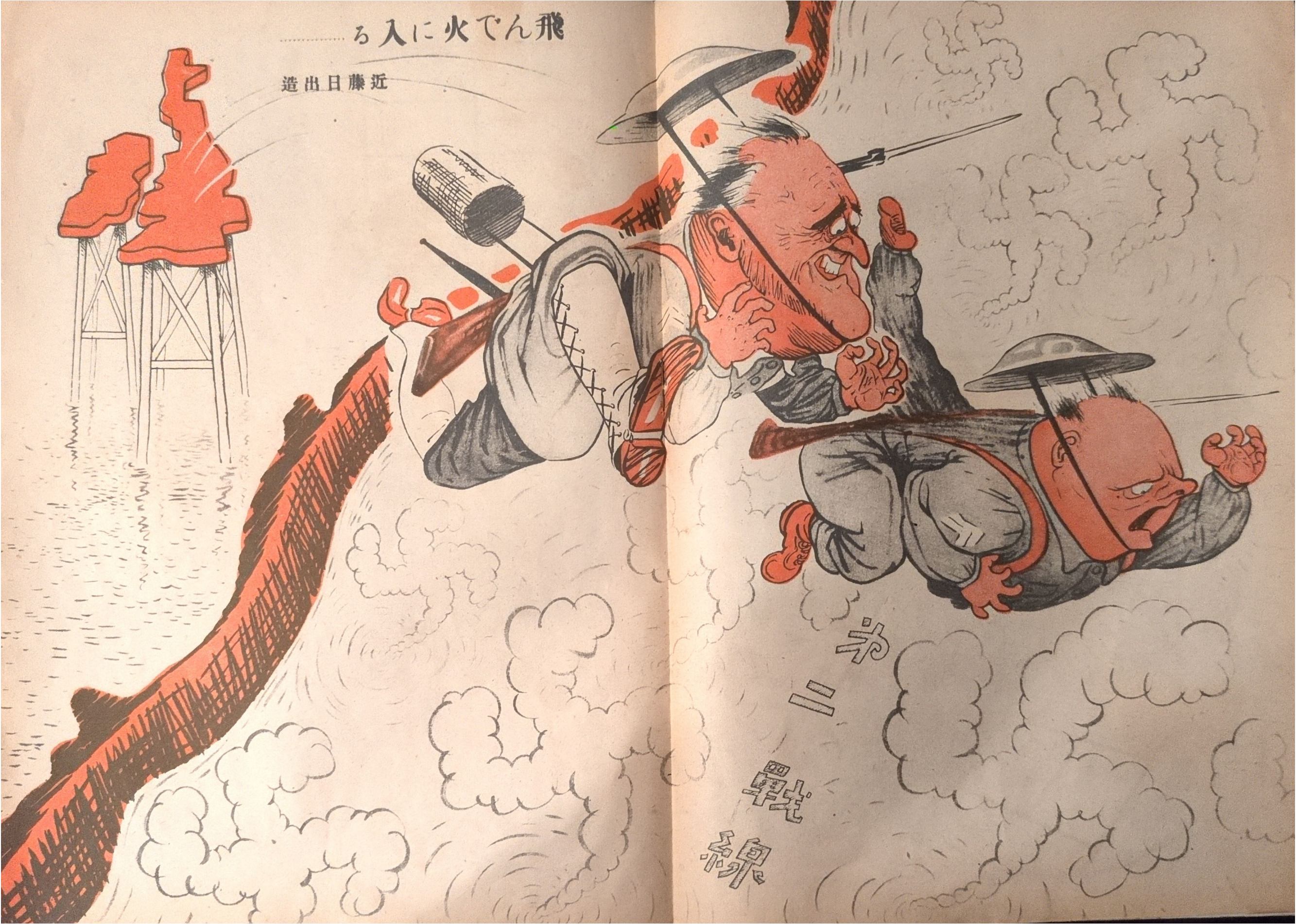
1
ワザ〳〵オミマヒオソレイリマス
ナニドウセ通り道デス
2
ヤア！ドウダネッ
3
起ギヤイカン
4
ネエ先生今日ハドコマデ進ミマシタカ
勉強ノコトハ氣ニカケルナ……
5
ダイジョブデスー！今日ハトテモ氣分ガイインデス
熱デモデタライカンガナア…
6
今日ハナ二等邊三角形ノトコロダヨ…
7
イ
ロ
ハ
頂角ロイハノ二等分線イニヲ引キロハトノ交点ヲニトスル
8
イロ＝イハ
イニハ共通
∠ロイハ＝∠ハイロ
故ニ……
9
コラッ起キタライカントイフニッ
10
ネテナサイッ！
デモ……ソレジャアスミマセン…
11
ソレヂャワシモネルカラオマヘモネロ
ハイ
12
∴△イロニ≡△イハニ
∴∠ロ＝∠ハ
13
アノウオ醫者サマガミエマシタ
14
サラバオアトトカウタイマタ明日
15
エ〜〜カハリアヒマシテゴキゲンヲトリムスビマアース
ハッハッハッ

待期地藏

田内正男

大法螺八疊敷

賄付貸間あり

飛んで火に入る……

近藤日出造

世事變々

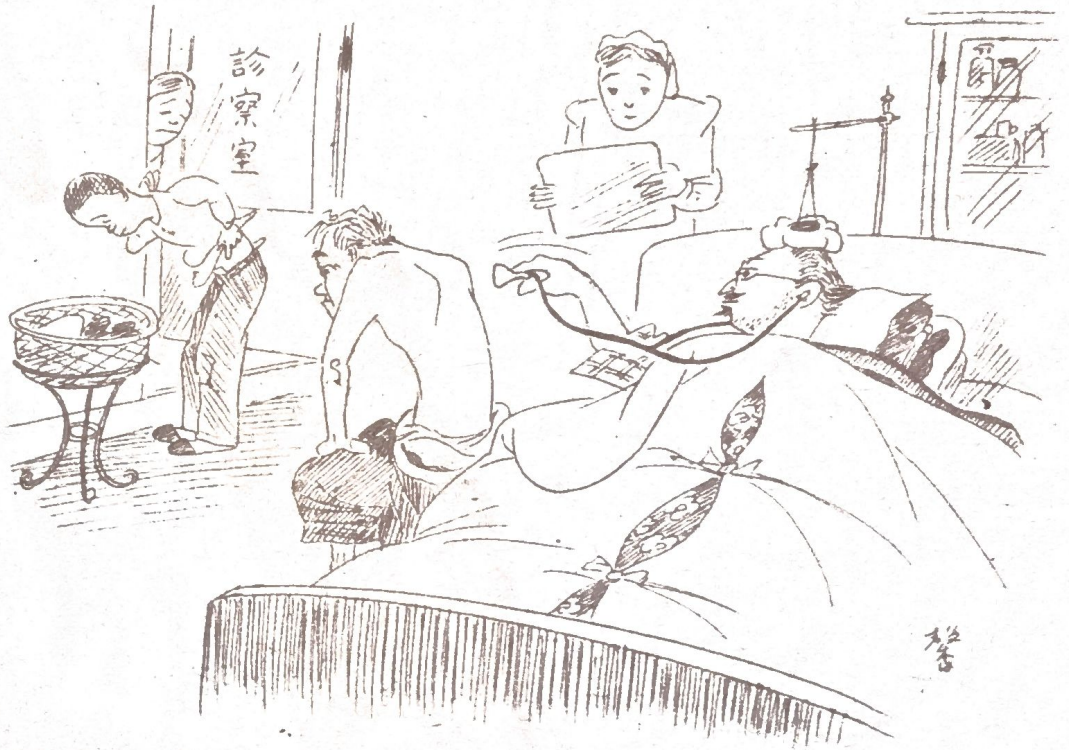
秋好馨

徹底節電

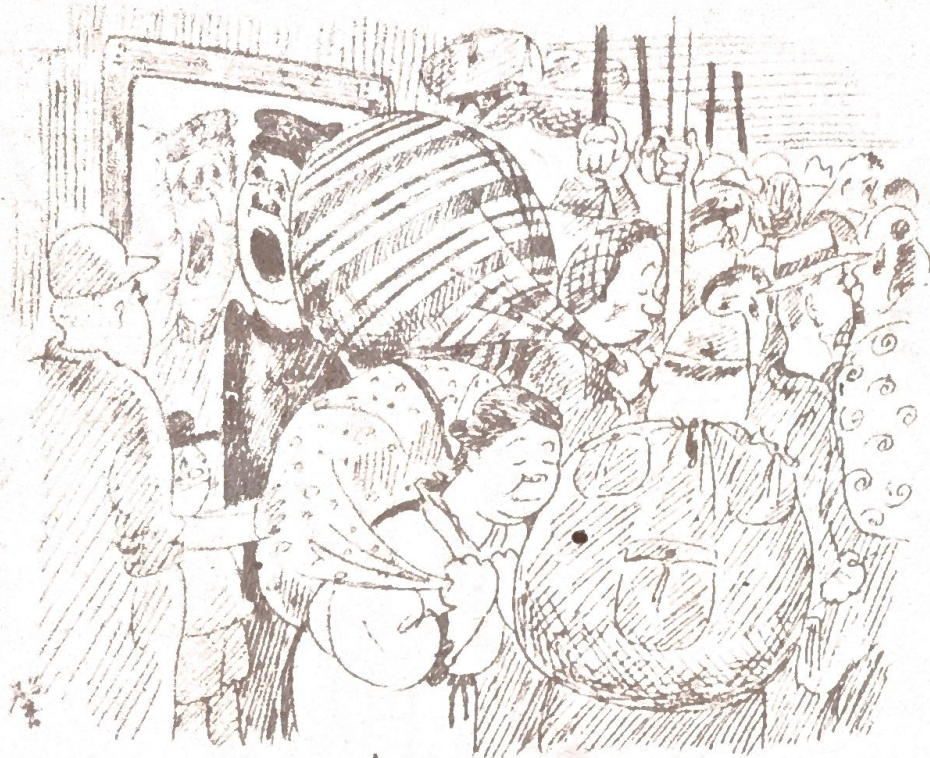
「ホ、ウ、月の明りで見ると、お前の顔も、満更らぢゃアないなア」

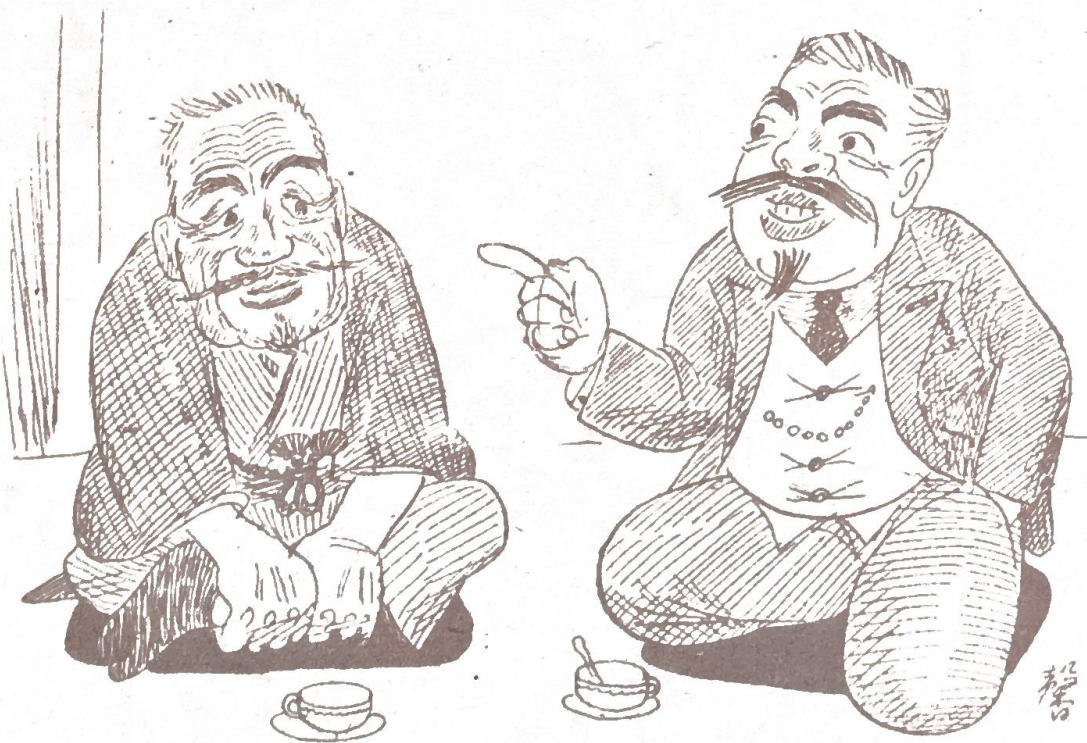
敢鬪醫術

「たゞの風邪でせう、心配なし。はいお次の方……」

決斷の時機

「だからサ、お爺さん、早く疎開して田舎に行きませうよ」

車掌さんも樂ぢやない

「毎度、御乗車有難うござるまアす。どなた様も御順になかほどへ……」

甘黨兄弟

弟「兄さんは、今年六十一ぢやから、菓子の配給がもらへる喃」
兄「ウム、嬉しいやうな、淋しいやうな…」

中村篤九

敗北の百萬圓は勝利の一錢に劣る

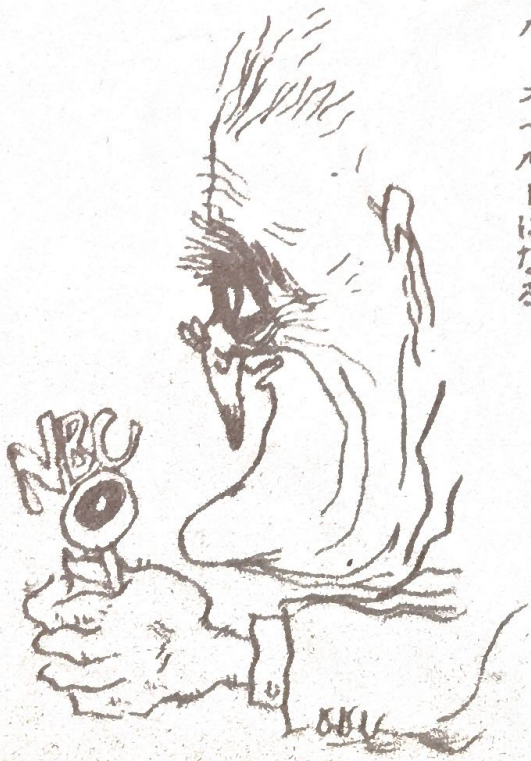
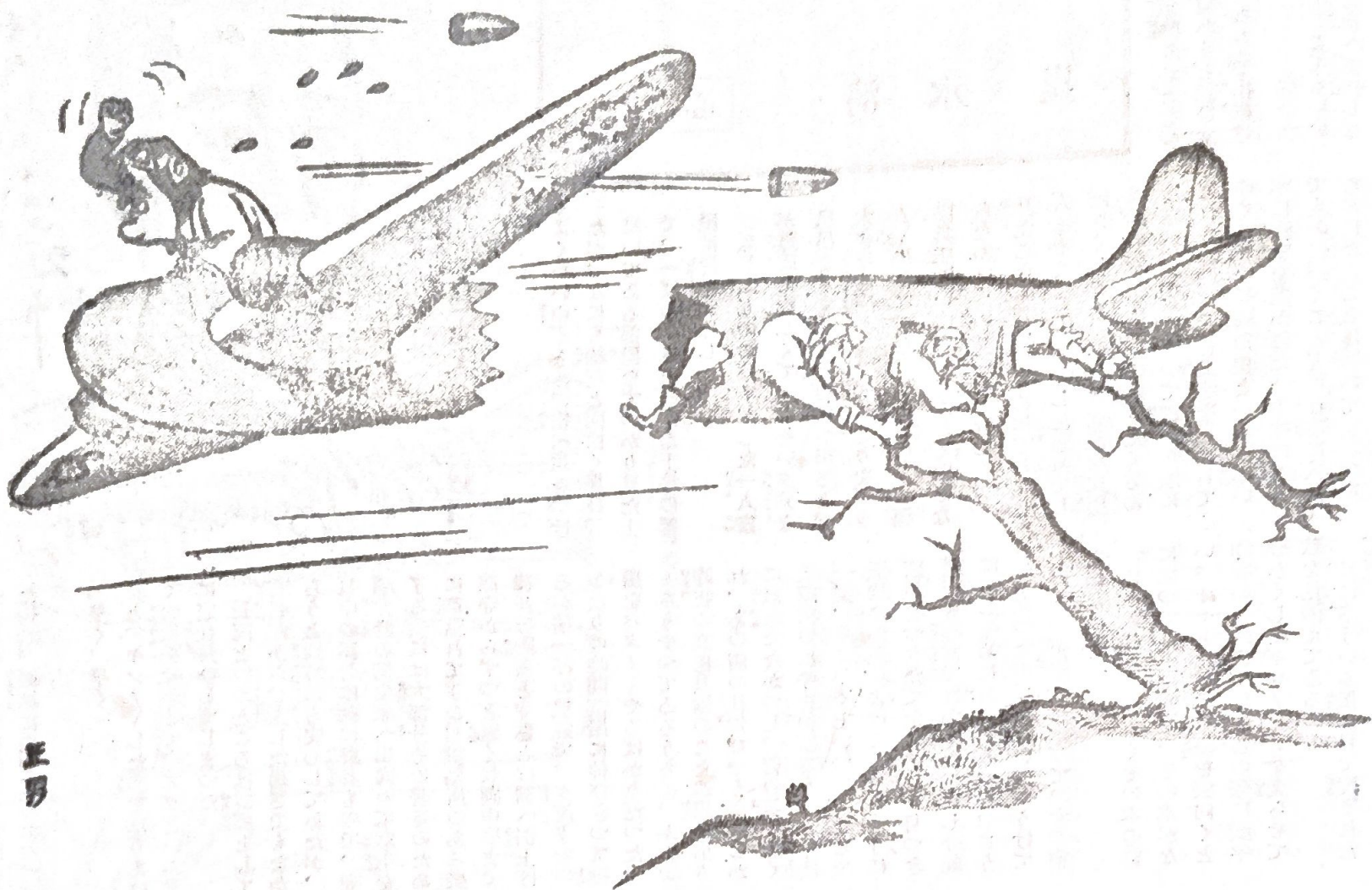
案山子にも献附せよ

嘘をつくとルーズベルトになる

日本に時を藉すな

石川進介

ラヴアルへ！ラヴアルへ！

田内正男

アメリカ兵つぶやく

俺は嫌だ！ 俺は征くのが嫌だ。征けばきつと死ぬから嫌だ。ルーズヴエルトよノックスよ、貴様等の天壽を全ふさせるために俺達が生命を捨てなければならないといふ理屈があるのか。貴様等が出つ歯のワイフに愛されて居る以上に、俺は俺の彼女から愛されてゐるのだ。貴様等の死が出つ歯のワイフにもたらす悲しみ以上の悲しみを、俺の死によつて俺の彼女はもたらされるのだ。

俺は嫌だ！ 斷じて嫌だ！

兵器に支配され操縦される自分を意識するのがたまらなく嫌だ。

貴様等は唯もう兵器の増産力、航空機艦船の大生産力を誇り、その數にフラ〳〵と醉はされてラバアルへ！ ラバアルへ！ なぞと勝手な熱を吐く。

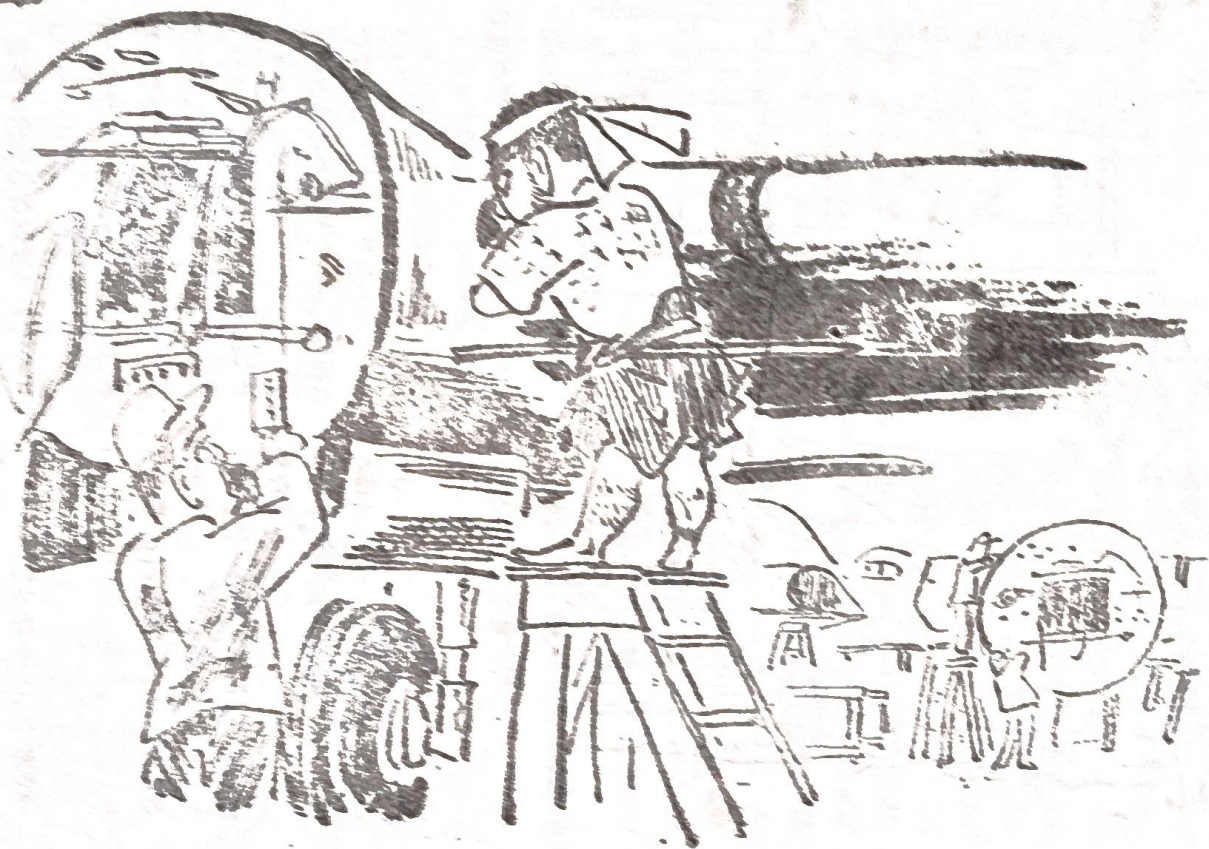
飛行機の出來工合が、俺の腕工合も何も無視して俺を恐るべき前線へ驅り立てる。航空母艦が俺の可愛い坊やの母體から俺をむごく引き剝く。飛行機はいくらでも出來るが、彼女の俺が二度と再びこの世に生れて出ると思つてゐるのか。大破した軍艦は修理も出來ようが、彼女の傷心をどう癒してくれるといふのだ。

俺は嫌だ！ 全く嫌だ。

貴様等が政權に四度の抱擁を續けようとすることと、俺が彼女に幾度かの抱擁を續けようと希ふことと、どつちに愛すべき人間性があると思ふのか。俗物共の强慾の犠牲に、この「いとしきジム」がどうしてならなければならないのだ。

又飛行機がゴマンと出來た、又空母がワンサと出來た、と聞かされる度に俺はぞつとする。俺の生命はゴマンとはないし、ワンサともない。彼女の言葉ぢやないが、「この世のたつた一つの生甲斐」たる俺なんだ。

俺は嫌だ！ 全然嫌だ。

太平洋はアメリカにとつての水郷場ぢやないか。あの不思議な性格を持つ日本兵に立向つて勝つなぞといふことは、神も首を傾け給ふ奇蹟と言はざるを得ない。俺は奇蹟を信じない。俺が信じるのは彼女の愛だけだ。日本兵の强さだけだ。

正男

恥釣り

那須良輔

日々の戦争

杉浦幸雄

英語の始末　「汚れたものは、汚れたところで」「よしきたら、磨いてあげるわよ。」

吐！米英依の病原を、吾れに神州三大の鉄槌！

應徴勇士の家　「それは班長さん、こゝで失礼します」「ウヘッ、こゝがお嬢さんの家かい？」

物價餘聞

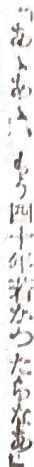
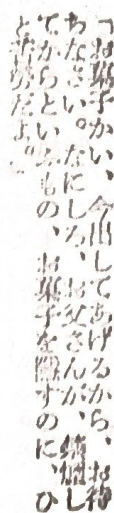
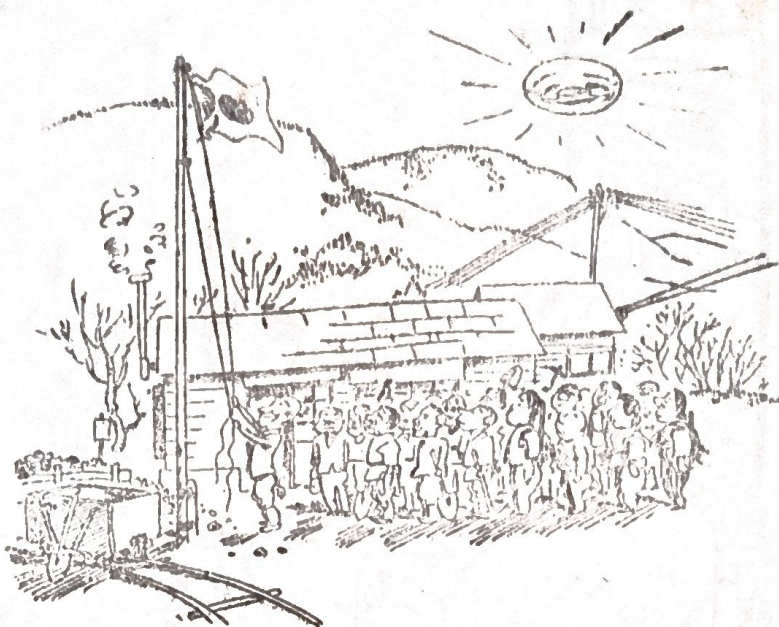
「お菓子かい、今出してあげるから、お待ちなさい。なにしろ、お父さんが、禁煙してからというもの、お菓子を隠すのに、ひと苦労だよ。」

親爺の嘆き　「あゝあゝ、もう四十年若かったらなあ」

豆炭

富山縣八代村訪問記

横井福次郎

今日は朝から永徳寺の本堂へ村の衆が參集して來て只事でない。只事ではないが誰のかほも搗きたての餅の樣にニンマリとおだやかだから別段心配事ではないらしい
やがてのことに、八紋一字型のさんぜんと輝くあたまのおつさんが半紙を五六枚つなぎ合してこれに「山祭」と大書したのを正面のらん間に背のびをしてはりつけた。
「治郎衛門の兄はん、御苦勞ぢやね」
と聲がかかつた、八紋一字型は振向いて
『オオ忠左衛門、今日は大いにやらうぞ』
といつた。それで皆ドッと笑つて
（アーハンはりきりぢやナ）とか
（今日は一斗あるさうぢや）とか
ワイ〜云つた。
今日は山祭なのだ。さう云へばこの寺から僅かのところにバラックが二ッ三ッ落葉に埋れてゐる、そしてなるほどそこに熊の棲家ほどのほら穴が口をあいてゐる、と申しては失禮だが、ことほど左樣に小規模な炭坑なのである、熊のやうにボテ〜した人がヂラホラ

出入りしてゐる、どれが男か女かわからないよく〜見ればみかん箱ほどの函を背負つて、エッチヤラオッチラ出て來て貯炭所に石炭を運搬してゐるのはモンペの女子衆だ、そのあとについて背を丸めて坑内にもぐり込んで見ると、ブーブー火を吹いてゐる小さな原始的なアセチリン燈の灯の下で、行つたり來たりしてゐるのは後山さんだ、もそつと奧に折れて進むとコッンコッツンのみの音が響く手掘りだこれは先山さんだ、少し手强い炭層は鶴嘴でどすんどすんとやつつける先山と後山は男衆であるどうも嬉しい炭坑だいや〜嬉しいのはまだ〜これからだ。
『お父はん、もうずき晝だよ』
『さうか、もうちつこりぢや』
と云つてゐるのは運搬婦と後山だがこれは父娘だ、父娘は珍らしくない、中には、父はん母はん、娘も息子も一家を擧げて炭掘りに來てゐるのもある、坑内はそれだからいつもホコホコ人情の温かい空氣があふれてゐて、暗い坑内もピカ〜光るやうな氣がする、それも道理で、ここに働らいてゐる人達は工場長はじめ皆この近邊のお百姓さんなのである、農閑期を利用して皆山へ石炭を掘りに來てゐる、だから農繁期になると採炭量が多少低下するのは已むを得ない、増産々々の折から、これを防止するために、長期のものは少しづゝ賃銀を增してゐる、半農半鑛とはちよつと珍らしい。鑛山ではどこでも寄り合ひが多くて、鄕土愛が薄いものらしいが、ここの炭坑ではまるきりそんなよそ〜しい空氣はない、毎日が常會の連續のやうに和氣あい〜いつも春のやうにポカ〜としてゐる、雪の降る日は運搬夫の女衆が雪だんごをこしらへて、これを坑内の男衆に持つていつてやる。坑内は春先の樣な溫度だから働らいてゐるとのどがカラ〜にかはく、
『あーはん、雪だんご一ッどうぢや』
『ホーありがと、ねーはんのすんせつは身にしみるよ、アハヽ』
といつたあんばいで眞白な雪の一握りが眞黑な石炭を掘出す力となるわけである、人情炭坑で掘り出した石炭はさぞかし、よくもえるであらうと思はれる
晝になると、飯場のストーヴを全員とりまいて樂しいひるめしを食ふ、飯粒を吹きとばし乍らおつさん連中は出征中の伜の話、娘たちは戀人の話に花が咲き、あつい茶を啜る、誰かが持つて來た干柿なんぞが無雜作にむしられて口から口にはいる、例へばこの歪んだ卓の上に一萬圓入りの蟇口を置き忘れたとしても、時計や萬年筆を放り出しておいたとしても、消えてなくなることは絕對にない、經營者の狩野さんあたりは屢々忘れ物をするらしいがこんなわけで不安はない、だからつひ氣樂に物を忘れて來るやうになる小さな飯場に全員が集るところからしても人數のほどは讀者諸賢にはお察しがつくであらう、トロも五十間ばかりやつと敷いただけ、遊園地の豆汽車の程度にゴットン〜動くだけ、排水ポンプも二馬力のが一臺あるつきりこれで二時間もポンック〜やれば全坑内の水ははき出せる、坑内は角礫岩でガッチリしてゐるから落磐の心配もまづ〜ない、ガスもない。

そも〜は加賀藩士前田慶寧公が蒸汽船を購入して歩いた折に發見したものださうである。そして日露戰爭頃迄掘つてゐたのだが、その後廢坑になつてゐた、それを鑛泉が出るのでこの方で復活してゐたところ虫がしらせたか戰爭と同時

漫版

座右の銘

中村篤九

牛の尻つぽとなるも、パドリオとはなるな。

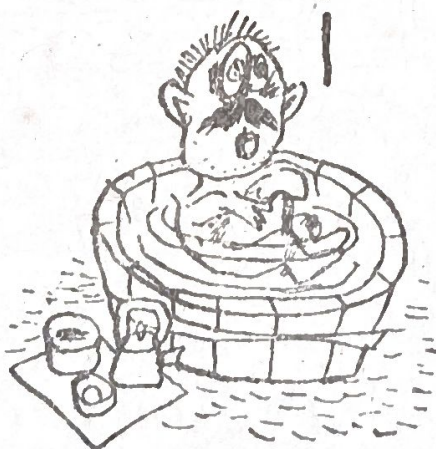
不自由を忍べることは最大の自由である。

デマに資本はかゝらぬ、しかし、かへつて來る損失は大きい。

捕虜が最大の名譽であるならば、たゞ手をあげる練習だけをして居ればよい。

雨が降つたら、傘をさせ。傘がなければ、濡れゝばいゝ。

猿も木から墜ちる。だが、猿から墜ちた木はない。

かくれて食べるしほせんべいはまづい。

裸になつたら今生れたと思へばよい。

一人で防空演習は出來ぬ。

貯蓄

は銃後の

弾丸!

第一生命保険相互會社

東京・日比谷

高精度薬品

スルフアミン剤
ゲリゾン錠

神經痛・ロイマチスに
カンポリジン

チスルフアミン剤
アルバジル錠

高血壓・動脈硬化に
アークレミン

アセトスルフアミン
ネオゲリゾン

各種中毒・貧血症に
レバナリン

スルフアメチルチアツオール
アチノン

ビタミンB1注射液
ビクリス

山之内製藥株式會社
東京都日本橋區小舟町二ノ三
大阪店・大阪市東區高麗橋五
海外店＝臺北・北京・廣東・香港

満洲山之内製藥株式會社
奉天市大和區紅梅町二

上海山之内製藥株式會社
上海百老滙路二六三號

胃腸疾患
特殊細菌性消化作用

有効菌の長期强生に必要なる最低量の水分を保有せしめたる潤性散劑の新發明

定價	
45瓦	1.50
100瓦	3.00
250瓦	6.00
500瓦	10.00

專賣特許

胃腸有効菌(乳酸菌)新製劑
潤生ソキン

慢性急性胃腸疾患、下痢、便秘症、腎臓炎糖尿病、脚氣に確効を有し赤痢、疫痢、コレラ、腸チブス等の患者に應用して其治療効果を促進す

潤生ソキン本舗
東京都牛込區二十騎町十八番地

昭和十四年二月九日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
昭和十九年一月廿八日印刷納本 昭和十九年二月一日發行
第十二巻 第二號 漫畫 二月號

發行所 東京都神田區錦町三ノ六ノ二 合資會社 漫畫社

編輯人 東京都本郷區駒込林町一七五 近藤秀藏
發行兼印刷人 東京都神田區錦町三ノ六ノ二 兒玉勳
印刷所 東京都神田區神保町二ノ一四 株式會社 關根印刷所
配給元 東京都神田區淡路町二ノ九 日本出版配給株式會社

定價三十錢 送料一錢

アメリカ喜劇　或る日のホワイト・ハウス

松下井知夫

A
B
C
COME DOWN BOYS
IKEDA-EIJI
小僧、粉にして團子にしよ
池田永一治

越の雪（上）

點心　清水崑

昨年の夏、山本元帥のことを少年向きの繪の本に描かうと思ひ立つて越後長岡へひとりで出掛けた。

驛の人力車夫に、どこでもいいからあんたの好きな宿へ案內しなさいと言つたら、あまり見かけのよくない中ぐらゐの宿へ車をつけたが、なにも緣だと面白く思ひ、空いてゐる部屋をすつかり見た上で、一ばん小さい一ばん上等の部屋に尻をおろした。

久しぶりののび〳〵した一人旅が無暗に愉しくて、おそい夕食と風呂をすませて夜の街へ出ると、大きな商店の並んだ通りをブラ〳〵歩きながら、書籍屋といはず運動具店といはず目にふれる飾窓ならなんでも入念にのぞきこんで、見たこともないものにはじめて見入るやうなウキ〳〵した氣持でしばらく行くと、かなり立派な文房具屋の前へ出た。書籍類もたくさんならべてある。入つて端から順にこれも丹念に、背文字を見物してゆくうち、長岡市史といふ部厚い本に注意を惹かれた。中味はどうでもとにかくこんどの仕事に入用な本になることは知れてゐるから、これはよいものがみつかつた一見しやうと手をあげて背伸びした途端、帳場に坐つてゐたお內儀が、

「早く、早く」

と、ヤン〳〵した聲をはりあげて店員をせかせて、アッといふまに店仕舞ひしてしまつた。

長岡といふところは酷寒地として有名だから、大した暑さでもなからうと迂闊にも安心してゐたが、日中の猛暑は殊に辟易もので、翌朝元帥の御生家へ出向いて寫生を了る頃には大部分その暑さのために草臥れて了ひ、御墓所のある榮涼寺からずつと遠く長岡中學まで徒歩で廻ると、あとは宿へ引上げるが精一杯の根氣で、夕飯までのかなりの時間部屋に伸びきつて團扇をバタ〳〵やるばかりだつた。

さうやつてゐるうちに、ふと、昨夜の文房具屋のことが思ひ出された、あの店の仕舞ひやうはたしかに只事でなかつた、何の氣もなく長岡市史に手を伸ばさうとした間一髮、早く早くといつて、まるで强盜か泥棒よけでもするやうに店員をせきたてたお內儀の目つき態度も尋常でなかつた、よし今晩は少し早めに行つてみやう、さう思ひ立つたので夕飯を待ちうけてすむと一番風呂を浴びて、すぐ宿を出た。

店へ入るなり眞直ぐその本の前に立つて見上げたが、その本がない。オヤと思つて帳場を振向くと昨夜のお內儀が勘定場の陰に顏半分かくしてギロ〳〵目を光らせて私を見据えてゐる。

私はさういふ險な目で睨まれた經驗がないので、頭を立てるどころかすつかり恐縮して了ひ、いかにも自分が惡いことをしでもしたやうに錯覺され、すぐさま獨特の空嘯きの態度に武裝したが、このまま引上げるのは流石附甲斐ないと思はれたので文房具の方をあれこれ物色し始めた。物色を始めた以上は何か買はないではお內儀の目つきの手前ほんとの厄病神に自分がなつて了ひさうで忌々しいから、手近にあつた大型寫生帳と、ケイ線なしの繪帖と6Bの箱入鉛筆を相當な量一緒に抱えて帳場へ運び、引返して三角定規を一對、尤もこの三角定規は、どういふわけで買ふ氣になつたものか今以て納得いかぬが、大方もののはづみといふ奴だらう、奇妙に欲しくなつたので買つてしまつた。しかし、かなりの値で重たくもあり、それを擔いで店を出る風態を想像するとどうも少し滑稽さが見らぬやうに思はれてお內儀の目つきの手前憚られる。そこで、宿まで屆けて貰へまいかと掛合つたところ、色よい返事ではなかつたがとにかく肯いてくれたので、私も體面を保つことが出來、たつた今自分で敎へた名前の宿へ引上げたのである長岡市史はどうなつたものかまだ判らない。

私は山本元帥のことを少年向きの繪の本にしたいと思ひ立つと同時に、こと元帥に關する記事類、寫眞であればいかに些細なものでも徹底に引抜いて複寫した。それで元帥の風貌の大よそは胸に疊めたけれども、地元の長岡といふところの來歴については離の同斷談も倫理且一樣で、明治戊辰の役で全市燒野原となつた悲慘事、及びさういふ環境の中から長岡藩傳統の士風を土臺として起ち上る諸の異常な艱難、したがつて元帥の少年時代がいかに貧しかつたか、貧しい中をいかに刻苦されたか、といふ概觀を附隨的に話し添える程度にすぎない。尤も話し手の頭の中には精しい長岡史が綿々と繰りひろげられてゐるのかもしれないが、歷史に無知識の私にはとても

戊辰役における官軍兵と旗（右）
長岡藩士と旗（左）

戊辰役

それぐらゐの事柄のおまけのみではとりつくしまはなかつた。
ただ朧氣ながら感得したことは元帥が戰死されてしばらく經つた頃日本橋高島屋で催された元帥回顧展に於て、淨山の遺影の中に並べられた參州牛久保の壁書十八ヶ條の內、

一、何事モ根本トイフ事
一、鼻ハ缺クトモ義理ハ缺クナトイフ事

この二つの戒律の前者はおそるべき高さとひろがりをもつ巨木の如き大らかさであり、後者は逆に一筋の檜の穗先でも見る思ひの銳さをもつてゐるが、かういふ兩極端のやうな感じの中にギクリと一貫したものがあつて、このギクリと一貫したるものがあつたからこそ、戊辰役の燒野原といふやうな悲境も生じ、その悲境から起立ることも出來、起上つた成果が凝つて元帥に顯現されたと考へてもよささうに私には納得されたといふ一事である。

だから、私の知りたいことはむしろ元帥の幼少年時代以前の事柄にあつた。しかし、ただ知つただけでは詰らん。とくと體感してみたい。そのためには現地に逗留して、自然と向ふからこちらの胸に何ものかジワ〳〵と浸みこんで來て、燃えて一つの情熱の態をなすまで待つに如くまいと考へてゐた。

風呂を出て廊下の椽に立ち、いくらか涼しい風の流れる夕方の空を呆んやり仰いでゐるところへ文房具屋のお內儀が品物を屆けに來た。よほど重かつたとみえて汗だくの顏を眞赤にして喘いでゐる。代金を拂はうとしたがツリ錢の持合せがないといふので、それならあとで又お店へ行つて買物しやうツリはその時でいいが、何か繪のかけるやうな和紙類はないだらうか、と尋ねてみると、

「どんな紙で？」

「和紙と名がつけば何でもいい」

「……………」

「なければ卷紙でもワラ半紙でもかまはない。若し心當りがあるなら取寄せて貰へないかな。」

「あなたは繪かきさんかのう？」

「まあ、さうだ」

「うちの倅も繪が好きで、画家にしたものかどうか迷ふとりますで。」

「幾つ？」

「國民學校二年生でのう」

「好きなだけ描かせたらいいだらうな」

「もうわたしも倅のこととなりますと懸命で、一緒になつて描いとります」

「ほう」

「あの、こちらさん、長岡へどんな御用でおいでなすつたかのう？」

「……………」

「元帥のことでもおかきになるので？」

「さあね……和紙は見つかりさうかな」

「繪が好きですから少しは持つとりますでのう、のちほどおいでなすつて」

といふことだから、早速行つてみた。

箋画の大きいのや上質の奉書卷紙はじめいろ〳〵あつて相當の量だからこんどは拙宅へ送つてくれるやうにと名刺を渡し、お內儀の樣子が私を繪かきと知つてからこちら幾分柔くなつたことを擽つたく感じながら引上げたが、長岡市史のことは紙にまぎれて忘れて了つた。

翌日、元帥の母校坂ノ上國民學校を訪ね、校長さんに話を伺つた歸りに元帥の姉上のお宅にお寄り申上げて幼時の思ひ出など少しお聽きして街へ出たが、家並みのつくりが丁度臺灣や南支那の廣東あたりと同樣鋪道の上へ天井がせり出し、陽よけの役をつとめてゐる。尤もこちらは冬の雪よけの方を主な目的にしてゐるのだらうが、珍らしく思ひ、寫生して步くうちに炎暑に參つて精根盡きてしまつた。

翌日も大差なかつた。

翌々日になると、もう一ト通り寫生の方は完了したやうに思はれた。

いつたい、長岡の街は丸燒けになつた跡に新しく出來た新興街で、元和四年牧野駿河守忠成公以來二百五十年、代々の居城も昔の馬場のあたりに新聞社が建ち、今はあとかたもない堀の眞ん中に警察署が頑張つてゐたり、往時の面影はまづ全く見られぬときめてよかつた。

それで、連日炎暑の中を步き廻つてヘト〳〵に草臥れたのも、御生家の寫生以外に現物としての收穫はない筈ながら、ただ、さうやつて數日この地に逗留して汗を流したことと自身から一つの安心は得られた。おまけを言へば珍らしく日本紙のいくばくかを入手出來たこと、職業がらこれも收穫であるには相違ない。

或る朝、まだ暗いうちから起きて歸り支度を整へると私は上野行きの一番列車に乘るべく宿を發つた。大通りの文房具屋の前を通つて驛へ急ぎながら、これでたうたう「長岡市史」にも再會しない仕舞ひになつたわけだが、敢えてあの本の行衞をたづねなかつたといふことは、すなはち元帥によつて顯現されるに至るまでのこの地が傳統する永い歷史の精華が、ジワ〳〵と私の胸に沁みこんで來て、燃えて、一つの情熱の態を未だ成してゐない事實と裏表の關係にあるやうだな。こいつはひよつとすると今一度やつて來ることになるかも知れないぞ。ふと、さう思はれた。

時計を見ると危く汽車におくれさうなので、行手に人けのないのを幸ひにトランクを擔いで慌てて馳け出さうとした時、ずつと後の方からこれも一散に走つて來る人の足音が聞えた。

何だか聲を出して呼んでゐるやうな氣がしたが、關つてゐる場合ではなし、半分飛ぶやうにして出札口へ辿りついた發車のベルが鳴り渡つてゐる。箱につかまるのと車體が動き出すのが同時で、座席に納つたあと急に昂つた動悸がなかく止まないで閉口したのである。

元帥御生家裏庭

陽よけと雪よけのある家並み

元帥在學當時の長岡中學